

年間授業計画【新様式】

高等学校令和8年度教科

教科 数学

科目 数学A

教科：数学

科目：数学A

単位数：2 単位

対象学年組：第3・4学年 必修

教科担当者：小寺 敦子

使用教科書：（「新 高校の数学A」（数研出版））

教科 数学

の目標：

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A

の目標：

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について、認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係につい認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関りに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
<p>○場合の数を求めるときの基本的な考え方について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>【知識及び技能】 ○場合の数をもれなく重複することなく数えることができる。 ○様々な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ○条件を満たすものを集合の要素として考え、表すことができる。 ○特殊な組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○集合の考えや効果的な法則について興味をもち、様々な集合を表そうとする。 ○様々な場合の数を求めるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。</p>	<p>第1章 場合の数と確率</p> <p>第1節 場合の数</p> <p>1. 集合</p> <p>2. 集合の要素の個数</p> <p>3. 和の法則と積の法則</p> <p>4. 順列</p> <p>5. 組み合わせ</p>	<p>【知識・技能】 ○集合に関する用語や公式を理解し、それらを求めることができる。 ○和の法則や積の法則を理解し、事象に応じて求めることができる。 ○順列や組み合わせの意味を理解し、公式を利用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○特殊な順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ○順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○順列と組み合わせの違いや、様々な場合の数を求めるのに、組合せの考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ○組合せの考え方を利用して、図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求めようとする。</p>	○	○	○	14
中間考査			○	○		1

1 学 期	<p>○確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>【知識及び技能】 ○試行の結果としての事象を集合として表すことができる。 ○確率の定義を理解し、簡単な確率を求めることができる。 ○試行が独立か、独立でないかを判断することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ○試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○ものごとの起こりやすさを、同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。 ○期待値を考える際に、期待値をどのように活用すればよいかを判</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○さいころを何回も投げる実験において、ある目が出る割合が一定の値に近づくことに興味をもち、その値の求め方を考えようとする。</p> <p>期末考査</p>	<p>第1章 場合の数と確率 第2節▷確率 1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率 4. 条件つき確率 5. 期待値</p>	<p>【知識・技能】 ○表や組合せの考えの活用や、余事象の意味を理解し、確率を求めることができる。 ○独立な試行の確率や反復試行の確率を公式を用いて求めることができる。 ○条件つき確率の定義や確率の乗法定理を理解し、確率を求めることができる。 ○期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○排反事象や余事象の確立などを利用して、複雑な事象の確立を考察することができる。 ○反復試行の意味を理解し、確率の求め方を組合せと関連付けて考察することができる。 ○期待値を、確率の考えに基づいて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○これまでに学んだ確率の性質を利用して、いろいろな場合の確立を求めようとする。 ○条件つき確率や確立の乗法定理の考えに興味・関心をもって活用する。 ○賞金や得点などの期待を、客観的な数値で表すことに興味をもち、期待値を求める。</p>	○	○	○	14
2 学 期	<p>○平面図形の性質についての理解を深め、それらの事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>【知識及び技能】 ○図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求める。 ○弧、弦、円周角、中心角など円に関する用語を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ○角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいか判断する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○図形的基本的な性質について既に学んだ事項を思い出す。</p> <p>中間考査</p>	<p>第2章 図形の性質 第1節▷平面図形 1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心、内心、重心 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線 7. 方べきの定理 8. 2つの円</p>	<p>【知識・技能】 ○図形の定理や、定義と性質を理解し、それを用いて長さや角の大きさを求めることができる。 ○2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○図形について、既習内容を用いて考察することができる。 ○様々な定理について、数学的な見方ができる。 ○2つの円の位置関係を、動的な視点によって観察・分類することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○図形に関する定理や図形の性質について、興味をもつ。 ○2つの円の位置関係について、中心間の距離と半径の関係を考察しようとする。</p>	○	○	○	16
				○	○		1

